

道連ニュース

2018年7月号 No.144

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

第62回道生協連通常総会を開催

第62回通常総会が6月21日(木)ホテルポールスター札幌で開催され、6議案すべて可決されました。代議員は33名で実出席17名、書面議決16名、委任出席0名でした。議長には鏡代議員(北大生協)が選任され、麻田会長より、会員生協と来賓へのお礼、北海道生協連がLPガス問題の取り組みで消費者支援功労者表彰で内閣府特命担当大臣賞を受賞したこと、この間の政治・行政の信頼を揺るがす問題や国民の暮らしが大変となる状況を迎え協同組合及び諸団体の連携が重要であることについて挨拶がありました。来賓の北海道環境生活部くらし安全局局長の堀本厚様、はじめて参加頂いたJA北海道中央会参事の高橋和則様、北海道労働金庫専務佐藤憲仁様から、暮らしの安全・安心への取り組み、社会的課題や社会貢献に対する協同組合間協同の取り組みを通じ、今

年度双方での協働を強めていく事に関しご挨拶がありました。平専務から第1号議案から第6号議案まで一括して報告・提案があり、佐藤特定監事が監査報告を行いました。議案はすべて承認されました。発言では、コープさっぽろ金子代議員より、ヒバクシャ国際署名の短期間で32万筆寄せられた取り組み報告、日本生協連井形オブザーバーより日本生協連SDGs行動宣言の紹介、特別報告として「協同組合間協働に関するJA北海道中央会と北海道労働金庫との連携活動の推進について、17年度の成果と今後について」川原事務局長より発言がありました。会員生協の役員体制の変更で6年にわたって道連理事を務められた林理事(コープさっぽろ)の退任挨拶と平専務の閉会挨拶をもって閉会致しました。



第19回福祉問題を総合的に考える委員会報告

第19回福祉問題を総合的に考える委員会が6月13日(水)開催されました。報告事項として旭川福祉生協大谷副院長から、『みんなのカフェ銀座』の取り組みについて、地域の商店街や福祉関係者、市民による運営委員会方式で、サークル、展示、運動教室、こども食堂など多彩な内容が取り込まれ、好評をえていること、また、地域の居場所として、高齢者だけでなく子どもも交流できる工夫がなされていることなどが報告されました。次にWEWとかち若菜代表から学校心理士として、困難な子どもたちと保護者が置かれてい

る状況に対し、地域でななめの関係でかわり、支援を継続するためにフリースクール、居場所、子ども食堂などの取り組みをおこなってきたこと、今度、帯広で全国子ども食堂ツアー道東編を開催することなどが報告されました。新NPOここすけ(こども高齢者助っ人センター)発足の経緯と活動内容について報告と意見交換を行いました。最後にこの間の協同組合間協働の進捗状況について川原事務局長より報告し終了致しました。

北海道生活協同組合連合会が消費者支援功労者表彰 「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。

北海道生協連は、消費者庁平成30年度消費者支援功労者表彰で「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞し、5月28日(月)総理大臣官邸での表彰式に麻田信二会長が参加致しました。

消費者支援功労者表彰は、消費者庁が毎年、消費者利益の擁護・増進のために各方面で活躍している個人・団体を表彰し、消費者支援活動の一層の奨励を行う制度。北海道生活協同組合連合会が会員生協のご協力によって、これまで行ってきた消費者活動や地域自治体と連携した活動が評価され、「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞しました。一昨年北海道地方連続台風での全国の生協組合員に呼びかけで支援金を

集めた取り組みや、この間取り組みを強化しているLPガス問題を考える会の取り組み内容、LPガス販売の実態についてデータ収集・分析とアンケート調査を実施し、行政・各種審議会への働きかけを行い、LPガス事業の改善に結びつく活動を展開。調査結果は、(経産省のワーキンググループの)報告書でも引用され、高く評価されたこと、灯油価格の適正化と安定供給・福祉灯油制度の実施改善を求める(継続的な)要請行動などが理由とされています。

今回の表彰を励みとして、組合員の生活向上実現に向けて奮闘します。



福井 照 内閣府特命担当大臣から表彰状を頂きました。(於:総理官邸)



平成30年度受賞者の皆様と記念写真撮影

発足後最大の参加人数で！熱い思いと優しさを交流！ 「こども食堂北海道ネットワーク第5回交流会」！



6月11日(月)全労済会館2階大会議室にて開催された第5回交流会は2018年度のスタートの会として、参加者の熱い思いと課題探し！や困った！を率直に交流する事ができました。運営団体関係者が22団体30名・行政が4団体6名・事業者が6団体14名・個人5名・合計55名の最大参加者数で熱い思いを共有、交流し合う事ができました。

この間、こども食堂活動でお米支援を軸に協働しているJA中央会、助成金紹介で運営者を支えてくれて

いる労金さんに加え、今回からは全労済さんも参加し、チャレンジしている運営者の生の声を聴き、学び、運営者さんを大いに励まして頂きました。

やれる事を一緒に探していきましょう！

北海道は広～いです！

協同組合が手をつなぎ合う事で、ちょっとしたお手伝いをする事で、子ども達や高齢者、地域へのお役立ちの活動はまだまだ広げられる事を感じた交流会ではなかったかと思っております。「無縁社会」や「諦念の社会」とも云われている今日にあって、自立した市民の協同、そして連帯する事により協同組合の存在価値は益々輝きを放ち！自らの組織が持っている特長ある強みを発揮する事で更に頼りがいがある組織に成長する事に確信を持ち、協同組合連携を様々な切り口から進めていきましょう！今後とも子ども達をめぐる様々な課題、活動への支援参加を宜しくお願い申し上げます。(事務局 松本)